

やかましいとか誰も言わないですよ。(E)

d) まちや生活の中での認識

以上のグループでの認識を通じて、郡上八幡のまちとの関わりや地域アイデンティティといった観点から音が理解された認識の状態として【まちや生活の中での認識】があると考えられる。この中で「イメージとしての認識」は、水の音や季節的な行事など、具体的な音事象や場所と結びついて想起されやすく、3章で述べた八幡のサウンドスケープの実態との関係が見られる認識の状態である。一方で「媒体としての認識」は日常の「生活との密着」とより深い関係があり、音を手がかりとした生活習慣が身に着けられたり、見えないものの状況や気配を察知するために用いられたりする。

- うちの姉は必ずね、朝洗濯するの。チンと秋葉様の鐘が聴こえてくるとき、ちょうど私は洗濯しとる。あーそうかそんな時間に早洗濯かって、そういう風な感じで。(E)
- 言葉で言うと、しんしん雪が降るとよくいうでしょ。ああいう感じがね、朝起きると、窓開けなくても、雪が降っているのはわかるのね。(I)

これらは「イメージとしての認識」と異なって特定の音との結びつきがわかりづらいものであるが、生活と密着した郡上八幡のアイデンティティを構成する一部であると考えられる。また、認識の状態は「無意識」であるが、同時に「生活との密着」が意識されている発話も見られた。

以上より、地域認識としてのサウンドスケープの構造として、【具体的な場面での認識】によって下支えされた【まちや生活の中での認識】と【認識の変容】があり、中でもアイデンティティにもとづく【まちや生活の中での認識】では、特定の音との関係が明確な「イメージとしての認識」と、生活の中で地域アイデンティティを構成する「媒体としての認識」があることが明らかになった。

5. 結論

本研究では、郡上八幡でのインタビュー調査をもとに、地域のサウンドスケープの時間的構造、空間的構造を明らかにし、郡上八幡における地域認識としてのサウンドスケープの構造を明らかにした。

本研究を通して、地域アイデンティティ的なニュアンスを持つ認識の形として、大きく「イメージとしての認識」と「媒体としての認識」の2点があると明らかになった。このうち、「イメージとしての認識」は、住民に語られた音事象の分析から明らかに

なった特定の音事象や地域のサウンドスケープの時間的構造、空間的構造との関係が明確であり、デザインや保存の対象となる音がわかりやすいものである。一方で「媒体としての認識」は、特定の音事象や場所との結びつきがわかりづらいが、「構築環境の状態」などによって成立している音の認識であり、それらが変化、喪失してしまうと成り立たない認識である。このことから、今後の地域におけるサウンドスケープのデザインの方向として、わかりやすい音事象の保存だけでなく、日常生活での音の認識を下支えする町家の通り土間や坪庭といったものの保存を行うような、音からの地域アイデンティティの保全における新たな展開が考えられる。

<参考文献>

- 1) 西村奏絵, 佐々木業: 地域認識の把握手法に関する研究レビュー, 第51回土木計画学研究会・講演集, 2015
- 2) 星野裕司: 親密な未知としての風景 - 生命的風景論へむけた一試論 -, 景観・デザイン研究論文集(7), pp. 37-48, 2009
- 3) 吉村晶子: 風景/景観に関する言説にみる景観概念, 風景体験類型及び説明モデルに関する研究, 景観・デザイン研究講演集, No. 3, pp. 76-86, 2007
- 4) 鳥越けい子: サウンドスケープ その思想と実践, 鹿島出版会, 1997
- 5) 土屋十園, 中村良夫: 親水路にみる流水形態と音環境の特性, 造園雑誌, 56巻, 5号, pp. 229-234, 1992
- 6) 長谷部正彦, 福村寿敬, 桑川高德: サウンドスケープの視点からみた河川流水音のゆらぎについて, 環境システム研究, 23巻, pp. 548-553, 1995
- 7) 三浦秀一, 佐々木由佳: 山形市街地における農業用水路の景観と音環境に関する調査研究, 日本建築学会計画系論文集, 63巻, 513号, pp. 61-68, 1998
- 8) 荒井歩: 郡上八幡における水路網と伝統的音環境に関する研究, ランドスケープ研究, 65巻, 5号, pp. 711-716, 2001
- 9) 古川日出雄: まちの音と住民の想起する生活像に関する調査研究 - 岐阜県郡上八幡を対象として -, 早稲田大学卒業論文, 2009
- 10) 一般社団法人日本サウンドスケープ協会 HP, <http://www.soundscape-j.org/>
- 11) 永幡幸司: 音環境の調査法 -ISO 12913 シリーズに基づくサウンドスケープの調査法-, 日本音響学会誌, 75巻, 8号, pp. 473-480, 2019
- 12) 佐々木業: 地域景観の議論のためのメモランダム, 景観・デザイン研究講演集, No.7, pp. 160-165, 2011
- 13) 佐々木業: 地域およびその認識の風景を考えるためのノート, 景観・デザイン研究講演集, No.16, pp. 471-479, 2020
- 14) 鳥越けい子: サウンドスケープ研究の課題と展望 神田地区におけるケーススタディーを通して, 騒音制御, 11巻, 3号, pp.141-146, 1987
- 15) 鳥越けい子, 庄野泰子, 田中直子: 建築物の性格が都市の聴覚的景観に及ぼす影響に関する基礎研究(1) 神田地区における5つの道を中心に, 住宅総合研究財団研究年報, 16巻, pp. 209-221, 1990
- 16) 平栗増浩, 川井敬二, 辻原万規彦, 河上健也, 矢野隆: アークード街路の音環境: 熊本市・長崎市中心市街地における実測調査, 日本建築学会環境系論文集, 71巻, 604号, pp. 1-7, 2006
- 17) 坂本優紀: 石川県金沢市における用水路が作り出すサウンドスケープ, 地理科学, 73巻, 4号, pp. 197-211, 2018
- 18) 金柄哲, 杉本正美, 包清博之, 藤本一寿, 中村洋: サウンドスケープと都市空間の係わりに関する考察, 造園雑誌, 54巻, 5号, pp. 263-268, 1990
- 19) 平尾和洋: 等音圧分布と周波数特性に基づく京都における音環境に関する一考察, 都市計画論文集, 36巻, pp. 835-840, 2001
- 20) 川井敬二, 平手小太郎, 安岡正人: 環境認知の観点からの人間-音環境系の記述に関する研究: 環境認知機構モデルとその音環境への適用, 日本建築学会計画系論文集, 62巻, 496号, pp. 9-13, 1997
- 21) 山本徳司, 栗田英治, 重岡徹: 農村の音環境の動的計測手法に関する一試案, 農村計画学会誌, 29巻, Special Issue号, pp. 269-274, 2010
- 22) 川井敬二, 小島隆矢, 平手小太郎, 安岡正人: 環境音の印象評価構造に関する研究 被験者自身の言葉に基づいた評価構造の抽出, 日本音響学会誌, 60巻, 5号, pp. 249-257, 2004
- 23) 足立重和: ノスタルジーを通じた伝統文化の継承 - 岐阜県郡上八幡町の郡上おどりの事例から -, 環境社会学研究, 10巻, pp. 42-58, 2004
- 24) 木下康仁: グラウンデッド・セオリー論 現代社会学ライブラリー 17, 弘文堂, 2014